

## 和文抄録

### テニス選手におけるサービスコースの予測スキル：熟練者と非熟練者の比較

順天堂大学  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号：4118052  
氏名：小松 溪太郎

#### 【目的】

本研究では、テニスにおけるサービス動作からサービスコース予測のための視覚探索を明らかにすることを目的とした。

#### 【方法】

テニス熟練者（熟練者群）4名、過去にテニス経験のない大学生（非熟練者群）3名を被験者とした。被験者は、視線計測装置つけ、サービス動作の映像からボールの軌道を予測した。正答率、反応時間、エリア内注視回数（頭、胴体、左腕、右腕、下半身、ラケット、ボール）を算出した。内省報告として、①画面のどこを注視していたか、②何故そこを注視していたかへの回答を求めた。

#### 【結果】

熟練者群の方が非熟練者群よりも正答率が有意に高かったが反応時間に有意差はなかった。熟練者群のボールとラケットの注視回数の割合が有意に少なく、右腕、下半身、顔、胴体の注視回数の割合が有意に多かった。内省報告では、熟練者群は「体の傾きや反りを注視している」など、非熟練者群では「ボールの動きや手首を注視している」などが報告された。熟練者群では「体の反りが強いと左に飛ばしやすい」など、非熟練者群では「早く動かないところを見てボールの動きを注視した」などが報告された。

#### 【結論】

熟練者は、非熟練者よりもサービスコースを正確に予測していた。非熟練者は、ボールとラケットを注視するが、熟練者は、サービスコースを予測するために経験的に獲得した知識に基づいて多様な身体部位（顔、右腕、胴体、下半身）を注視することが明らかとなった。